

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ありがとう
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	北海道紋別郡遠軽町
記入者名 (管理者)	松川 佳弘
記入日	平成 20年 11月 10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	あらゆる機会を捉え、集合形式でも個別にでも口頭と通信等を通じ、より広く浸透を積極的に図って行きたい
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域・地区内でのネットワークを通じ、組織体としてのつきあいと併行して「ありがとう」のつきあいの密度を濃くして行きたい
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は出来るだけ職員の意見を集約し、まとめる形で報告しているが、外部評価はより客観的なものなので、ポイントを決めて重点的にタイミング良く浸透させていきたい。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>諸般の都合で開催が遅れていた運営推進会議は委員全員が出席して行なわれ、ホームの経過と現状、これからの運営について意見が交わされ大変有意義で、これからの運営に活用しようとする。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村とは、担当部局と日常的に連携をとり種々内容の検討と意見や質問を重ねながら正常運営を心がけている</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現状は、該当がない</p>	<p>○ 突然の必然性がある場合には間に合わない事にもなるので勉強の機会をつくり備えていきたい</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の研修会への出席もし、日常的に気配り目配りを強めると共に、小さな事案にも注意を払いその意義を機会あるごとに(報道等)喚起している</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	要項に基づき、重要事項の説明はもとより自宅に伺い家族立ち会いのもと、本人との面接を通じ質問も受けながら納得して貰い、不安のないよう入居の決定を利用契約書により実施している		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見や苦情を表すことができるように、苦情処理概要掲示をしているし、具体的には玄関内に投書箱を設け、無記名で申出ができるように常時配慮している		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全入居者につき、家族等に一定期間中(約2ヶ月)の暮らしぶりや健康状態をより具体的に報告し、その結果、質問を受けたり要望を受け特に変化がある場合は個別に確認の印を貰っている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近々1ユニット拡大することが決定し間もなく工事が着工されるが、入居人員拡大を機に家族会のことも具体的に考えたい。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々にも勿論様々な意見があり極めて広い事項につき意見を聴くが、職員によるミーティングの際にも、まとめた意見を集約し、要望や考えを示し、更にはハード面ソフト面から広く意見を取り入れている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者や家族等は身体的な健康問題、仕事の問題、その他家庭の問題等で病院での受診など頻繁に変更があるが、職員・運営者が協力してその都度支障がないよう勤務体制を柔軟に又臨機応変に調整し、ほぼ満足出来るように対応している		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時からの職員の離職者は少なく、比較的良好な展開となっていることもあり馴染みの関係は十分に保たれ、異動があっても円滑に運営出来る体制が整っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資質の向上につながる研修・講習には運営者も管理者も、介護職員も出来る限り参加している。遠紋地区でも任意での組織形態を作り、毎月1回の研修を実施し、これには殆どの職員が参加し勉強を重ねているし、出来る限り数多くの研修に参加出来るよう配慮している		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者職員との連携はある程度継続して行っているが、相互の体験訪問による交流等内容の濃い、継続性のあるものは稀薄である	○	積極的に相互体験の機会或いは組織をつくりたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス解消につながるような組織的、継続的、専門的な取り組みは出来ていないが、職員が休憩をとる場所は確保している	○	専門的で具体的な取り組みを研究したい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員の日頃の勤務努力は言うまでもなく重ねているし、実績もあがっているが、介護保険制度の後退に伴い、実行面での窮屈さから脱出出来ず、思うようにはならない	○	なるべく安価で実行出来る方策を探り、支障の少ない範囲で、着実に実行していきたい 法改正があるようで、その中味に期待したい
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に当っては、必ず、本人及び家族等と面接し、意見要望を把握することはもとより出来る限りホームの見学と生活様子を見て貰い、入居者各々が希望することを採り上げ、納得の上で受け入れている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場に立って考え、時には家族等との間の種々様々な問題等も、聴いて納得し、理解するまでの努力はしているが、知っていると深入りする可能性もあるので絶対に立ち入らないように厳重に注意を促している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接の際に本人・家族等にとって何が 必要かを把握し、常に心がけ、それらを基本と して、入居者個々の事情を考慮し、それらを 申し送り事項に重点的に記載するなど工夫を 重ねている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	段階的な支援は理想だし、出来れば入居前 ケアが必要だが、急を要したり現実的には 非常に困難を極めるが、現在では9人入居 中なので、開設時と違う	○	新規入居の都度、出来る限り実行したいが、 様々な現状に鑑み、実情としては時間がか かる等のコストの問題もあり大変に難 しい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共 にし、本人から学んだり、支えあう関係を 築いている	介護する方も介護される側に立ってどう いった関係を維持していくかを普段の生 活の中で共有し、互いに結びあう何か を全入居者に見つけ、共に喜び合う環 境づくりから外れることなく継続して いる		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人 を支えていく関係を築いている	家族と共に縦の関係ではなく対等な 関係を築き、一緒に思いを束ね介護 を充実させて行くことに専念して いる		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に 努め、より良い関係が築いていける ように支援している	家族等の来訪は多く、1週に3~4回、 最低でも10日に1回程度孫や親類 など数人で顔を出し、半日 各入居 者の部屋で楽しく過ごすことで、 精神的ケアが満たされている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染 みの人や場所との関係が途切れない よう、支援に努めている	機会をつくり、買い物に行ったり、 外気浴をしたり、公園に出かけたり その時々々の体調を見ながら積極 的に散歩を含めて実行している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひと りが孤立せず利用者同士が関わり 合い、支え合えるように努めている	介護度が平均的に高く、中々自主 的或いは介護員が関わりながらも 難しい面はあるが、生活のごく細 かい面で 例えばソファに座る位 置、食事の際のテーブルの座る位 置等のゆずりあいなど、気を付 けている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在はその場面はない	○	大変に難しく追跡は困難を極めるが、こうした事態になった場合は、十分に注意をしたい
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の暮らしの中で、入居者の個々の個性ある要求について、言葉や素振り態度から判断し、画一的ではなく一人ひとりの希望を取り入れ、その人らしい生き方をしてもらっている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者個々の歴史認識はプライバシーの面もあり特に慎重に取り扱っているが、反面で生かした積み重ねが出来ずにいるジレンマもある	○	入居者の歴史をも含め、知り得た情報をかみ砕き、それをどんな場面でどの様に活用するかを検討して行きたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の引き継ぎの際のミーティングや、日勤者～夜勤者～日勤者の入居者の状況申し送り、今日の生活の参考にす繰り返しの中で全体像をとらえ、1人ひとりの総合的状況を把握している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	要項にもある通り、安心して、自由に、そして主人公として楽しく暮らすことをモットーにチーム全体で調整をとりながら各々の立場で個性を活かし、全体が入居者中心になり住みなれた地域で安心して暮らせるよう心がけている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	時には計画的な介護を予定通り行えない場面もあるが、家族等、或いは職員間で話し合い、期間にとらわれず柔軟な対応で短期的な介護計画を立て、取り敢えず対応し、その後、中長期の計画を立てている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の個別記録は記入し、職員間の大・小ミーティングの中で一人ひとりへの介護記録を参考に日々の変化や毎日の取り組みをを検討し、介護計画の見直し等に反映している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等の来訪も多くその都度、要望の変化等を把握し、新鮮なサービスに心がけるなど、その時に合った、その人に合ったケアを心がけている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	組織的ネットワーク等特別に立ち上げたものはないが、各々の機関(民生委員・消防・教育委員会・社協等々)と連携をとり、問題点など相談をしながら充実を目指している	○	地域の人と物を包括したネットワーク等を立ち上げ、あらゆる情報を提供し、どんな時にも対応出来る体制づくりを是非実行したい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターや、介護支援事業所(ひまわり・虹・JA・プライムいくたはら・丸瀬布社協等)と連絡をとりながら連携を深め、普段の連絡を密にし現況の報告や相談をし状況が許せば互いに協力している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと連携はとっているが、ネットワークの拡充までは今のところ届かず、今後の課題として捉えている	○	地域包括支援センターと協議を重ね、より具体的で、長期的で広範囲のケアを求め一つひとつ解決したい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは支援連携の協定を取り交わしているし、一人ひとり主治医の診療を定期・不定期に拘らず受け、家族等も安心満足している		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門病院との連携体制がとれているので、認定はもとより、その他の治療についても適切に行なわれている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職については、准看護師が1人在職していて、日常の健康管理は勿論、他職員への対処能力向上につなげている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者の入院時には時々様子を見に行き、状況の把握に努めているが、退院、症状の変化等については個人情報保護が守られ、家族以外には告げられないので難しい	○	退院計画は難しく、他機関からの働きかけで一部解決することが先決
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	誰もがなり得る可能性の極めて高い重度化や終末期は、避けて通れないことなので、今後検討を重ね、より良い方向に進みたい。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	チームとしての支援には至らず、その時に応じ、個別に対応しているが、医師の判断に従いながらであり、もっと組織的に取り組むべきとも考える	○	出来れば組織づくりをして充実したい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めようとしているが、過去に前例はなく、その時の為に備えたい		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー確保は家族等の要望に強く表れていることもあり、運営者・管理者・職員共に神経を使い徹底した気配りに常時努めているが情報公開とのかねあいもあり迷うこともしばしばある	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の希望には常時応えるよう心がけているが、表情や行動を読み切れない部分も若干あるので、見逃しなどないように注意を促したい	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても勤務体制や、時間のこともあり、職員優先になりやすいが、モットーの通り、その日にやりたいことを把握し、入居者を主人公として一緒に楽しく暮らしていきたい	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみはとても必要なことなので、出掛ける時は言うまでもなく、ホーム内での生活時も小奇麗でさっぱりしたさわやかな服装をするように心掛けている	○ 勿論衣服の洗濯など、充分に行なっているが、中々おしゃれまでは届かずが多くなるので細めに努力したい
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全入居者が食事介助を必要としており、職員共々の食事はその他諸々の事情があり果せないが、会話を楽しみ、ゆっくりしながら時間を過ごせている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ時間は毎日午前、午後の2回設けているが、酒・たばこは入居者の嗜好がなく皆無の状態、コーヒーや夏はアイスクリームなど気を配っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者は時々の失敗はあるものの全員トイレでの排泄とし、時間や表情、行動により察知し、全員支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度者が多く入浴は全員が介助入浴であり、職員の休憩や、通院介助の関係で手薄になることから現在週2～3回に限られている	○	出来れば毎日入浴の方向に向きたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜を通じてほぼ本人の意のままに行動し休息はもとより、就寝もあまり制限なくとっているし、その延長で、生活習慣が構築されている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	唱歌を一日流し、一日一度は職員が新聞を読み聞かせる等しているが、時事や宗教やスポーツに興味を示す場面もあり、生活歴が時々顔を出す		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度者が多く困難。入居者別に口座を設け、個々に必要品を購入し家族等と照合している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい夏は特に表でのおやつや外気浴、公園での散策、買い物など声かけをし出掛けることが多い		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春・夏・秋定期ではないが、近隣での花フェア・祭り見物・おもちゃ館見物等々全員で出掛ける計画を立て、全て実行し、これを家族等に写真入り通信でお知らせしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等が、いつも頻繁に来訪するので、つい忘れがちだが「電話をかけよう」「手紙を書こう」の気持ちも大切なので是非考えたい	○	電話をかけよう、手紙を書こうの気持ちも大切なので、検討をしたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等馴染みの人が気軽に来訪できるように面会には特別な時間帯を設けず、いつでも開放しているし、来訪者は多い		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの研修・勉強会にも参加し、その重要性を仮にされた場合の立場になって深く認識し安心・安全のケアを徹底している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は絶対に鍵をかけない方針は設立時から変わらず、玄関内部にはセンサーで小鳥がさえずる小物をセットし、無断外出への注意と来訪確認を行なっている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者一人ひとりの動向を経験として把握し目配り、気配りに徹し、夜間帯も含めて安全確認を徹底している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要な物を除き、より危険度の高い物品は手の届かない高い棚、或いは鍵のついたボイラー室その他に保管し、入居者を誤飲や誤食の危険から守っている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットは必ず報告をし、全員報告書を読み特に危険を感じる場合は小ミーティングを行い、再発防止に心がけている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	防災及び救急訓練は実施しているが実際の緊急時に慌てずに対応できるか判断は難しいが、訓練の回を重ねることは勿論、近所の人々の協力を仰いで訓練を重ねている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の緊急対応は常に心しているところで、常に避難場所の確認や確保、関係者・近隣者への協力体制依頼は手筈が整っているが尚強力な支援が望まれる		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	今のところ大きなリスクを伴うような問題は生じていないが、事情が変われば、家族等の納得が貰えるようにしたい		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調は、ホールにいる時も各居室にいる時も入浴中も排泄時も常に気を配り、申し送りを参考にしながら、顔色での判断、普段との変化・足送りの様子を見、早期対応に心がけている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は入居者別、服薬時間別に分け、誤薬は絶対にならないよう対処している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消に向け、散歩を促したり食事を工夫するが、特に難題で解決できない場合が多い。もっと専門的で特効薬の開発などの改善策が欲しい	○	個別に原因があるかも知れないので専門医等に教わり、原因と対策を立てたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内のケアには充分気を配っているが、職員の手薄状態の中での他サービスとの重複などにより、一部出来ないこともあり、反省点である	○	完全に実施できるような体制と設備の改善をしたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食物摂取量・水分摂取量は記録しており、それを参考におやつ等の時に調整している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは毎秋予防注射を施し、ノロウイルス等は毎年その都度研修を受け予防の対応をしている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理台は専従の炊事係をおき衛生管理に努め、食材は基本的に毎日新鮮なものを買って求め新鮮な料理を提供している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物のハード面・職員の介護と対応のソフト面、双方の効果が表れ、家族等も含め来訪者が多いと思っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設立地環境のこともあり音や光は申し分なく、共用の空間も客観的に見て良好である		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室は一人ひとりのものであり出入りも自由なので、ホール・食堂と住分けをし、何かの時の控室もあり、居心地は良好		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はカーテンを除き、全てが利用者持ち込みのものであり、使い慣れたものの中で日々快適に暮らしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・空調は設計時に計算され、指示に基づいて使用しているし、特に夏場等は環境の良い風景を眺めながら窓の開閉で調整している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要などころは全て手すりを付け安全に自立できるよう配慮し精神的にも自立できるよう気遣っている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	建築、物品配置の当初から十分に気を付け、表示を設けるなど判断ミスのないようにしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏場は、外部に花(大小プランター)を配置し、水やりや花つみ等楽しんだり、テーブル・椅子を配し、花をながめながらのおやつ等を楽しんでいる		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)